

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
運動障害と救急法 Clinical Management of Sports Medicine		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(健康運動実践指導者>資格取得希望者は必ず履修すること)	特に制限は設けない
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
本庄 広大	非常勤講師室	授業終了後		授業中に指示します
授業の概要				
スポーツ、介護その他の多様な運動指導の現場において、最低限必要とされる必須な医学的知識を概説する。またスポーツ指導者にとって必要な外傷の応急処置、救急救命処置などの技術習得を目指す。				
授業の目標				
①スポーツ、介護の現場で見逃してはならない症状を把握できるようにする。 ②救急救命の理論と技術を用いて現場で対応できるようにする。 ③スポーツの外傷、障害についてその理論を説明でき、予防、対処法を実践できるようにする。 ④スポーツ外傷の応急処置ができるようにする。				
授業の方法				
スライドを中心に講義を行い、適宜ディスカッションを行う。				
学習の成果（学習成果）				
①スポーツ、介護、運動指導の現場で自信をもって対処することができる。 ②救急救命の理論と技術を用いて現場で迅速かつ積極的な行動をとることができる。 ③スポーツの外傷、障害について適切な予防、対処法を指導することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	スポーツ医学総論			
第2回目	スポーツ中止の判断：自覚症状から			
第3回目	スポーツ中止の判断：他覚症状から			
第4回目	内科的な急性障害			
第5回目	内科的な慢性障害			
第6回目	救急蘇生法の基礎			

第7回目	救急蘇生法の実習
第8回目	スポーツの現場での救急処置
第9回目	スポーツ外傷 総論
第10回目	スポーツ外傷 骨折と脱臼
第11回目	スポーツ外傷 筋肉系
第12回目	各種スポーツにおける外傷
第13回目	スポーツにおけるコンディショニング
第14回目	スポーツ外傷の応急処置
第15回目	運動障害と救急法総括
事前・事後学習	自身で教科書を読み返し、正しい知識を身につける。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	①講義の目的・内容をしっかり理解し、積極的に参加する(S=90評価)。②メモやプリントを積極的に利用する(A=80評価)。③集中して講義に参加しないものは評価が低い(場合によりD評価となる可能性)。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	80%	①全出題項目が理解できている(S=90評価)。②重要な出題項目が理解できている(A=80評価)。③基本的な問題が理解できている(B=70評価、又はC=60評価)。
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

- 教科書 【健康運動実践指導者養成用テキスト】 健康体力づくり事業財団
- 参考書 【スポーツ理学療法学 競技動作と治療アプローチ】 Medical view

履修上の留意点・ルール

- 実務経験 (職種: 医師、職歴: 通算18年) 授業では触れなかった疑問を自分で調べ、不明な箇所を先生に質問すること。